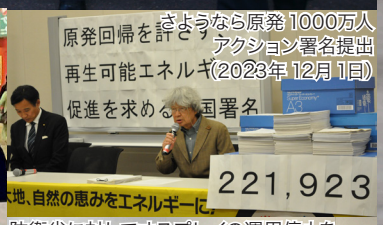
1966 年 3 月 30 日第 3 種郵便物認可　毎月 1 回 1 日発行　2024 年 2 月 1 日 907 号

2024. 2 No.907

News Paper

オスプレイの配備反対！(2013年 1月 27日東京・日比谷野外音楽堂)

総がかり行動実行委員会新宿街宣行動
(2023年 12月 21日・東京新宿駅前)



さようなら原発 1000万人アクション署名提出
再生可能エネルギ(2023年 12月 1日)

防衛省に対してオスプレイの運用停止を求める九州ブロック労働組合連絡会議
(2023年 12月 12日)

さようなら原発全国集会
(2023年 3月 21日)

平和運動フォーラム・北海道への核持ち込みは許さない！ 11.23
幌延デー北海道集会(2023年 11月 23日・幌延町)

高校生平和大使・高校生 1万人署名活動(2023年 8月 27日・東京味の素スタジアム)

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続いている。そしてイスラエルによるパレスチナ占領とジェノサイド。核兵器の使用をもほのめかすロシアとイスラエル。世界終末時計は 2023 年 1 月、「1 分 30 秒前」まで進んだ。2010 年の「6 分前」から進むばかりで戻ることはない。2024 年はどうなるのか。

気候変動、大規模災害が世界各地で起こっている。日本でも年明け早々の能登半島地震。繰り返す大地震、地震大国ニッポンで、原発回帰はありえない。大規模災害での救援体制も避難対策も、その脆弱さが指摘されている。5 年間で 43 兆円もの軍事費拡大など言語道断。人びとの命とくらしを守るためにこそ使われなくてはならない。

私たちの思いを、願いを、希望をつなぐために、様ざまな動きをつくり出そう、人びとのうねりを！

もくじ

嘲笑や冷笑に屈せず、社会を変えることに躊躇してはいけない　フリージャーナリスト 安田浩一さんに聞く…2
辺野古地盤改良工事の強行、オスプレイの墜落事故…4
朝鮮人追悼碑の存続を求めて再び裁判へ……5
2023年ピーススクール開催報告と今後の展望……6
能登半島地震と志賀原発……8

発行 :〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 フォーラム平和・人権・環境／原水爆禁止日本国民会議 定価 :1 部 200円 年間 2000円 (送料込) e-mail: office@peace-forum.top
郵便振替 :00160-1-71756　発行人 : 藤本泰成　TEL. 03(5289)8222 FAX. 03(5289)8223　http://www.peace-forum.com　http://peace-forum.com/gensuikin/

インタビュー・シリーズ：196

嘲笑や冷笑に屈せず、社会を変えることに躊躇してはいけない。

フリージャーナリスト　安田浩一さんに聞く

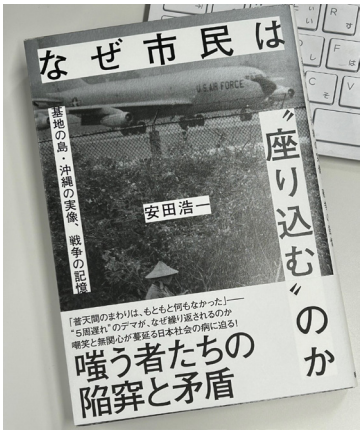
やすだこういちさん プロフィール　フリージャーナリスト。1964年 静岡県生まれ。外国人労働者やヘイトクライムなどの問題について優れた執筆を残してきた。2013年に発行された『ネットと愛国』は、講談社ノンフィクション大賞、日本ジャーナリスト会議賞を受賞。2015年『ルポ外国人「隷属」労働者』で大宅壮一ノンフィクション賞（雑誌部門）受賞。2023年7月に発行された『なぜ市民は“座り込む”のか』（朝日新聞出版）では、嘲笑と無関心が蔓延する日本社会の病に迫る。『学校では教えてくれない差別と排除の話』『沖縄の新聞は本当に「偏向」しているのか』『団地と移民』など著書多数。

―安田さんが7月に出された「なぜ市民は“座り込む”のか」（朝日新聞出版）では、抗議する沖縄の実像に迫っています。

日本の国土面積のわずか0.6％の沖縄に全国の米軍専用施設の7割超がある現実、これは言い続けなければならない。明らかに沖縄差別ですが、県外の人は沖縄を差別しているとは思っていない。

僕は高江のヘリパッド建設工事で警備員の「土人」発言があった時、現地リポートで沖縄にいたんです。「派遣された警官から土人発言がありましたが、工事は強行されています。許しがたい差別行為です。」と報告しました。スタジオの人が沖縄差別をしていると言ったのではないのですが、「今、沖縄差別と言われましたが、我々は沖縄を差別していませんよ。沖縄料理が好きだし、海も綺麗で沖縄は大好きです。」って言うんです。世の中では割とリベラルと言われる人たちですらそうなんです。日本にある米軍専用施設の7割を沖縄に押しつけている現状や、差別を可視化する必要性を言いたかったのだけど、まるで通じていない。

沖縄に対しても、必要だから我慢しろと言うだけでなく、一緒に負担を引き受けるべきです。代執行訴訟でも「公益」という言い方で国の都合を押し付けている。公益のためだから我慢しなさいっていう判決の醜悪さに愕然としました。



基地は攻撃の拠点であり、攻撃の目標でもある。更なる被害が予測されるような施設をなぜ沖縄だけに集中させているのか、政治やメディアもきちんと論じてこなかった責任は大きい。だから、今からできることをしましょうと、恐れずに提言するべきです。私たちはきちんと問題を突き付け、怒り、そこに被害者がいることを言い続ける必要があります。

―デモを行っても通行人から冷めた目で見られます。こうした社会の空気をどう思われますか？

抗議や主張の内容はともかく、デモ行進って奇異なものと捉えられます。身近な人たちは同じ意見の持ち主だけど、それ以外の人や社会って冷淡な態度をとりますよね。若い人、例えば学生と話すと、「怒っている人が怖い」って言うんです。抗議や抵抗をする社会運動が、なんかよくわからないけど怒っている人たちのものだと思われている。

でも、人間の「憤り」や「怒り」が社会を変えてきた歴史があります。様々な不平等とか不公正に抗議し、立ち上がってきたことで変わってきた歴史です。労働環境だって完全ではないにせよ整ってきたし、平和を守ろうと主張する人がいるから、無差別に戦争ができる状況にならない。私たちは、怒りや憤りで社会を変えてきたんです。それを「怖い」と表現するようになったのは、社会がそう仕向けたんでしょうね。戦後の自民党政権が、何かを抗議したり怒ったりすること自体が悪いことだと思わせるように仕向けてきたと思うんです。これまでの運動の反省も必要でしょうが、それでも私たちは怒らなくちゃいけない。

僕がどうしても許せないのは、抗議する人たちや運動そのものを嘲笑する人たちの存在です。沖縄の辺野古で座り込んでいる人たちに対して、You Tuberや有名なインフルエンサーが嘲笑する。これは絶対に許せません。

辺野古に座り込んでいる人、悲惨な沖縄戦の記憶を継承されている人がいる。そうした人を何ら被害を感じてない人々があざ笑うという行為が、たまらなく下劣に感じるんです。戦争体験者や被害者、その土地で生まれ育った人々をあざ笑う権利なんか誰にもない。思いを理解できないのであれば黙っていろと思う。そのぐらい腹が立ちます。

真剣に怒っている人を笑うという行為は沖縄だけじゃない。僕はレイシズムの現場や差別を煽る人たちを見てきました。僕が見てきた風景は、基本的に怒り

の風景ではなく冷笑、嘲笑する風景でした。マイノリティを馬鹿にする、見下す、差別によって苦しんでいる人々を笑うことで相手の怒りを無効化する。その行為が本当にたまらなく嫌だったんです。

笑われた時点で議論にならない。笑われていると感じる人間が笑っている人間と議論ができますか。笑うことによって優越的な地位に立とうとする人々の存在そのものがたまらなく嫌なんです。

僕が「笑うな！」と怒るのは、真剣にやっている人、腹の底から憤りを表現している人、被害を受けている人たちを笑うことに対するもので、これだけはどうしても許せない。本来、笑いというのは社会にとって必要なものです。権力に向けて皮肉を言う、笑うことで権力を無効化させる。庶民の知恵の一つだったと思いますが、強いものが弱いものを笑うという構図だけは耐えられない。

声を上げなければ、怒りや憤りって社会に届きません。だからこそ、社会運動っていうのはきちんと訴え、主張することが大事だと思っています。嘲笑や冷笑に負けてはならない。

こんな世の中であっても、怒りの存在が一定程度社会の暴走を防ぐ一つの役割を担っている。怒りには意味があって、様々な形で防波堤になっていることを私たち自身が認識するべきだと思います。

―社会全体が無責任になったと感じます。例えばSNSで、匿名で好きなこと言って逃げちゃう風潮があります。

匿名が担保されるのは良い面もあるけど、無責任な言葉もSNSでは存在している。何を言っても構わないんだっていう空気を必ず生み出すわけです。それでもそこに一定の価値があると昔は思っていました。誰もが個人で活動を出来るわけではなく、匿名の人々が団結をして、労働運動や市民運動に結集する。それはとても大事なことで、僕は匿名がすべていけないとは思いません。

ただ、日本社会はSNSの匿名性を利用して、社会的に弱い立場や障害のある人に対して牙をむいたんです。かつてインターネットというものを認識したときには、考えられなかったことです。今の差別問題は、ネットによる被害が一番大きいんです。

SNSの暴力に無自覚な人間は、無自覚であり続けて叩きやすい人間、より弱い人をターゲットにする。最大の問題は、被害がきちんと可視化されないことです。ネットの世界で自分がいくら暴力的な言動、差別と偏見にまみれたヘイトスピーチを繰り出しても、その被害に遭っている人の表情を見ることはないから延々と繰り返す。ネットがそうした空気を作り出した。より社会的に弱い立場の人や、運動が誹謗中傷され、ヘイトスピーチが飛び交う現状をどうしたらいいのか、僕は答えを持っていません。

今、表現の自由を最も謳歌しているのは差別者です。尚且つ、ヘイトスピーチや誹謗中傷の流布を、一部の憲法学者も含めて表現の自由として守るべきだと言う方もいます。でも表現を奪われ、沈黙を強いられ、言葉を奪われているのは弱い立場の人々です。差別をするような人々が、弱い立場の人々の表現の自由を奪っておきながら、差別者の表現の自由だけを最大限に認める社会って何なのでしょう。

国会議員が、「アイヌのおばさんたちがコスプレしている」みたいなことを平然と言う。社会的には問題になっても政治家としての責任は取らされないし、刑事罰があるわけでもない。国会議員という影響力のある人間がそうした言葉を使えば、それは社会全体に広まり、再生産されて嘲笑や冷笑が生まれます。被害者の苦痛が全く理解されない。そんな社会の枠組みはおかしいと思います。

―労働運動や平和フォーラムの運動への提言はありますか？

今の労働組合は社会的な存在であることを忘れているのではないかと感じます。賃金闘争も職場の環境改善も大事です。と同時に、労働組合って社会的な存在なんです。賃金が上がるだけで社会は良くならない。本当の豊かさを獲得して少しでも不安を少なくして生きていくためには、構造そのものを変えていかなくちゃならない。政治に対してきちんと労働者がものを言えるかどうか。一定程度、影響力を持つかどうかってことが問われています。

若い人に取材したときに「会社はお金をくれるけど、労働組合はお金を取るだけ」って（笑）。労働組合の存在意義が見えていないんです。何のために存在し、何をしているのか、姿の見える労働運動が必要です。なかなか難しいところですが、労働組合が社会を変えるために成果を残したとき、必ず信頼は得られると思います。

市民運動と労働運動が常に共闘関係にあるために、平和フォーラムのような組織は必要です。社会が変わることを望んでいる人が必ずいる。そのためにノウハウを提供して運動をリードする、そうした人や組織が必要なんです。敵が強ければ強いほど、逆風が吹けば吹くほど必要価値があると思います。だからこそ問われた責任も重い。

社会を変えることに躊躇してはいけない。僕がメディアで文章を書くのは、良い社会に変わるといいなっていう気持ちがある。その気持ちは失いたくない。膝を抱えて苦しんでいる人がいる以上、私たちは投げ出すわけにいかない。声を出したくても出せない人がいるなら、その人のために動くべきです。当事者任せにしない。「私がここにいますよ」と常に言い続けることです。あらゆる社会運動、人権団体、労働組合にとってそのことが大事だと思います。そうすることで誰かが見つけてくれるし、駆け寄ってくれるはずです。

世界秩序を危うくするアメリカ覇権主義への追随
辺野古地盤改良工事の強行、オスプレイの墜落事故でも主体的対応できず

フォーラム平和・人権・環境　事務局長　染 裕之

辺野古軟弱地盤の改良工事に国が着工

重機が埋め立てのための石材を沖縄・辺野古（大浦湾）に投入するたびに、白い砂埃が海の上で舞い上がります。そのニュース映像を見ながら胸が締め付けられ、怒りに震える思いをした方がたくさんいたことでしょう。

１月 10 日、米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設計画をめぐって、防衛省は軟弱地盤が広がる辺野古北側（大浦湾）の工事に着工しました。軟弱地盤の改良工事のための設計変更を、国が県に代わって承認した全国初の「代執行」を経て、県が認めてこなかった区域での着工です。

同日、玉城デニー沖縄県知事は記者団の取材に応じ、「知事の権限を奪う代執行に至り、さらに工事の着手が強行されたことは、（政府が主張する）『丁寧な説明』とは到底真逆の、極めて乱暴で粗雑な対応がなされたものと言わざるを得ない」と厳しく批判しました。

防衛省は今後、７万本以上の砂の杭を打ち込む地盤改良工事を実施した上で、土砂を投入するとしています。計画どおりに工事が進んでも、工期は９年３か月を見込み、新基地の供用開始まで 12 年かかると言われています。

膨らむばかりの疑問

仮に計画どおりに工事が進んでも、移設は 2030 年代半ば以降になります。総工費は当初見込みの約 2.7 倍の約９千 300 億円に膨らみ、地盤改良工事などでさらに増え、工期も伸びる可能性もあります。

辺野古新基地が完成したとしても、滑走路は約 1,800㍍と普天間基地の約 2,700㍍と比較しても短く、山に囲まれて視界が遮られるなどの地理的な制約による危険性も指摘されています。

辺野古新基地が建設されると陸上自衛隊も常駐することとなり、海兵隊の演習場・弾薬庫とも一体となる沖縄の日米軍事要塞化の最大の拠点となります。

日本政府は、アメリカの対中国包囲戦略に追随して台湾有事を煽り、沖縄本島、宮古島、石垣島、与那国島、奄美大島などの南西諸島を日本の防衛ラインと位置づける計画を進めていますが、中国のミサイル技術の向上を受け、米軍の戦略は「分散化」「小型化」が基本となっています。地政学を理由に、沖縄や南西諸島に米軍や自衛隊の軍事施設を集中させなければならない合理的な説明はつきません。

他の自治体も、地方自治の自律性の尊重や基地負担のあり方など、辺野古が突き付けた問題の解決策を共に考える必要があります。辺野古新基地建設を許さない闘いと、南西諸島の戦場化を許さない闘いを一体のものとして捉え、全国からの結集をはからなければなりません。

政府からは、普天間基地の危険性を除去するためには、辺野古に基地を新設することが「唯一の解決策」であるとの説明が繰り返されていますが、合理的な説明に乏しく、疑問は膨らむばかりです。

オスプレイの墜落を受けても主体的な対応できず

昨年 11 月 29 日、鹿児島県屋久島の沖合で米空軍輸送機オスプレイ CV22 が墜落しました。米軍は調査の結果、機体そのものに問題があった可能性があるとし、世界に配備しているすべての種類のオスプレイの飛行を停止しました。

事故が起きた９日後の 12 月８日、平和フォーラムは、「オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会」と共同で、外務省と防衛省に対し緊急申し入れを実施しました。

墜落事故の真相究明を日本政府が主体的に行い、事故調査報告を公開することや、日本国領域内でのすべてのオスプレイ配備の中止を検討することなどを申し入れ、事故に至った経過の説明を求めましたが、明確な説明は得られず、怒りと憤りが増幅するばかりでした。オスプレイの飛行停止を判断したのは、日本政府の要請に従ったのではなく、あくまでも米側の判断によるものです。日本政府は事故の翌日、安全が確認されてから飛行するよう米側に要請しましたが、飛行停止は明確に求めていません。

日米地位協定が壁となり、米軍が起こした事故に日本の捜査権が及ばない現状は理不尽極まります。オスプレイの事故を含め、協定が定める日米相互の捜査協力義務さえ守られていないことに、日本政府は強く抗議するべきです。

アメリカにとって敵対する相手がソ連から中国・ロシア・「北朝鮮」に変わっただけで、過去も現在も太平洋の制海権をめぐる争いであることに変わりはなく、そのために日本の存在は重要であると言われます。

米中など大国間の紛争は、互いに際限のない軍拡競争でけん制し合うことで、自国の軍需産業を潤し、世界秩序を危うくすることにつながっています。日本政府は、こうしたアメリカの姿勢を支持していますが、アメリカへの追随が日本の戦略である現状や終わりのない覇権争いに強い危機感を感じます。

（そめ ひろゆき）

「記憶 反省 そして友好」の朝鮮人追悼碑の存続を求めて再び裁判へ

群馬県平和運動センター　事務局長　倉林 誠

県立公園「群馬の森」の一角にひっそりとたたずむ朝鮮人犠牲者追悼碑を守る闘いの経緯は、以前にも本紙で報告しましたが、新たな闘い（2023年10月11日 前橋地裁に提訴）を展開することになりました。

群馬県に強制連行された朝鮮人のことを考える際には、まず、中島飛行機の存在が大きいと考えられます。戦時中、日本の軍用機の3割を製造した中島飛行機は、太田市を中心に全国161か所、県内にも多くの工場を持っていました。さらに地下工場跡が5か所存在しますが、この建設のために多くの朝鮮人・中国人労働者が動員されたことが明らかとなっています。また、群馬県北部の鉄山や硫黄鉱山、その鉱石を運ぶための鉄道や、軍需工場のための発電所建設にも多くの人が強制連行によって連れてこられ、その中で命を落とした人も少なくありません。

その事実を反省して2004年4月に建てられた群馬の森「追悼碑」。2012年の第二次安倍政権発足以降、「碑文が反日的だ」として撤去を求める団体が碑の前で横断幕を掲げ、職員と争う事件を起こし、県議会に追悼碑の設置許可の取り消しを求める請願が出されました。

今回の新たな訴訟の内容は、①執行停止申立て「追悼碑の撤去および原状回復命令（2023年4月27日付）は、本案事件の第1審判決言い渡し後60日を経過するまでの間、停止とすること。」②請求1「追悼碑の撤去および原状回復命令（2023年4月27日付）を取り消すこと。」③請求2「追悼碑の設置申請に対する不許可処分（2023年6月13日付）を取り消すこと。群馬県知事は、原告に10年以下の設置管理機関として、群馬の森の追悼碑を設置および管理することを許可すること。」以上の3本となっています。

これまで最高裁での上告棄却（2022年6月15日付）以降、同年8月に県が追悼碑の自主撤去を求め、従わない場合は「強制代執行もあり得る」と通告してきました。守る会は、自主撤去を拒否し、山本一太知事との意見交換を要求しましたが、知事は「すでに司法の場で結論は出ている」と意見交換には応じませんでした。同年10月以降、守る会と県との協議が3回行われましたが、妥協点は見いだせず打ち切りました。昨年4月、県から「弁明の機会の付与通知書（2023年4月7日付）」が届き、守る会は運営委員会で①弁明内容は弁護団に任せる。②今後、法的に碑の存続を訴えていく方針（・設置許可申請を提出し記者会見を行う。・強制代執行に対する差止め請求権を行使する。）を確認しました。

私たちは、歴史をかえりみてアジアの国々との友好な関係をつくろうと考えています。戦後78年経って、過去のことを証言してくれる人もわずかとなり、歴史の事実を残せなくなるのではないかと感じています。その一方で、過去の歴史を書き換えようとする人たちが現れ、追悼碑の問題の発端となったのもそういう人たちです。そして現在の政治もその流れにあり、政治が歴史を書き換えようとする時、この国でも他の国でも近隣の国と争って大変なことが起きています。この裁判は、そういう動きを是認するのか否かの判断を問う場になると考えています。群馬だけの問題ではない裁判だと思います。政治から独立した司法の判断を求めていき必ず勝利したいと思います。

政府や企業は、過去の事実を覆い隠し、過去の歴史から消し去ろうとする傾向が強く、多くの資料が散逸したり処分されたりしています。それを待っているかのように、政権は歴史の事実について歴史学の研究成果から学ぶ姿勢が乏しい。あるいは学ぼうとしません。今や、歴史の事実に基づいた科学的で合理的な政策が行われない国となっています。過去の事実、歴史の事実と向き合い、率直に過去を反省し、アジアの人々との共通の歴史認識に立って、これからのことを話し合っていかなくては互いの信頼は生まれません。

当面、1月20日に追悼碑存続の県民集会、2月7日に第1回口頭弁論（前橋地裁）、スタンディングは都内や県内で継続して取り組まれています。再び法廷での闘いになりますが、関東ブロックはじめ全国からのご支援・ご協力をお願いします。

（くらばやし まこと）

＊原稿は12月末時点のものです。

2023年ピーススクール開催報告と今後の展望

フォーラム平和・人権・環境　橋本麻由

2023年11月17日から19日まで、２泊３日の日程で、「平和フォーラム2023ピーススクール」を開催しました。

平和フォーラムピーススクールとは

どの組織においても、平和運動の後継者育成問題は喫緊の課題となっています。これからの平和運動を担っていく世代は、安保闘争を歴史の授業で習い、学生運動にもかかわることがなかった若者たちです。これは、平和フォーラムに関係するすべての組織の問題であり、後継者育成は避けて通れない問題です。そこで、平和フォーラムでは地域や職種の枠を超えて若者が集うことができるスケールメリットを生かし、平和・人権・環境問題などへの若い世代の関心を高めるとりくみとして、2018年から「ピーススクール」を開催しています。2019年に第２回、コロナ禍を経て2022年に第３回を開催し、2023年で４回目の開催となりました。社会に存在する様々な課題を丁寧に伝え、共に考える場となるよう座学（講演）のみならず、参加者同士の対話を重視するグループワーク、五感を活用して体験するフィールドワークを通して、平和運動や原水禁運動、人権課題などの現状や課題を学べるものです。その一方で、同世代のつながりをつくる場であることも企画の意図に含まれており、「学びの場」であると同時に「つながりの場」になることを願って参加者同士で対話する場面を多く取り入れています。

第４回の開催

2023年開催のピーススクールは、全国各地から32団体の41人（うち女性５人）が参加しました。職種や世代も違う６～７人ずつで６グループをつくり、講演のほか、フィールドワークとして「第五福竜丸展示館」を見学しました。最終日には、ワークショップの総集編として「安全保障に関する防衛力の強化」「原発推進政策」「労働組合の政治活動・平和運動積極参加」をテーマに、賛成・反対に分かれ、ディベートを行いました。本来の自分の考えと違う立場で主張を展開することは大変だったようで、時に笑いも起きながらのやり取りが続きました。閉講式は堅苦しくせず、参加者全員が車座になって座り、一言ずつ感想を伝えあって、全日程が終了しました。なお、一部参加者はピーススクール終了後に議員会館前まで移動し、「19日行動（総がかり行動実行委員会主催）」にも参加して、より実践的に「平和運動」体験しています。

多くの関係者に支えられての開催

2023年のみならず、開催会場の提供や講師の紹介、当日の進行、報告書の作成など全般にわたって、自治労、日教組、全水道にご協力いただきました。また、中央加盟組織および都道府県運動組織の皆さまには、参加者募集の段階から、各所にお声かけをいただき、41人という想定を超える人数での開催をすることが出来ました。たくさんの人に支えられて開催したピーススクールですが、運営側の自己満足ではなく、参加者からのアンケートや感想からも、改善の余地はあれど成功裏に終わったと胸を張れます。

参加者の感想など

事前にハードな日程表を見ていた参加者の半数以上が、「難しそう」「大変そう」「不安」というイメージを抱えて参加していました。しかし、開催後に行ったアンケートでは、９割以上が「良かった」または「大変良かった」と印象が変わり、「学びが多かった」「貴重な経験になった」「今後に生かしたい」という感想が多く寄せられました。また、参加者の中には、２回目の参加となったことで「昨年以上に学ぶことが出来た」という感想も聞かれ、これまで平和運動に関わってこなかった参加者にとっては「新鮮な学び」となる一方で、役員経験のある参加者にとっては、これまで取り組んできたことの疑問に対する「解

答の糸口を見つける場」となったようです。

参加者から講師へ

今回、人権問題の講師をお願いした全統一労働組合の坂本書記長は、過去３回のピーススクール参加者でした。今でも参加者同士で連絡を取り合うそうです。

ピーススクールが学びの場を提供するだけではなく、立場を変えて「取り組みを伝えていく場」にもなったかと思います。ピーススクールは、著名人や運動の第一線で活躍する人からの講演が聞けるところが強みですが、同世代が取り組んでいる問題について話を聞き、直接疑問を投げかけ、回答を聞くことが出来る場でもあります。人数や空間も限られた中だからこそ、仲間が一緒にいる場だからこそ、萎縮せずに疑問や思いを投げかけられたのだろうと思います。

今後期待すること

ピーススクール参加者の皆さんが、今回得た経験を活かし、それぞれの職場や地域での活動で、さらなる活躍をされることを期待しています。もしかしたら、これまでの参加者の中から、運営の立場で参加する人が出てきたり、講演をする立場になることもあるかもしれません。まずは、参加者が各地域・組織に戻って、ピーススクールで得た知見や思いを還元してほしいと思います。地域や組織の仲間に伝える、そこから運動の芽が生え、形になっていくはずです。また、交流した参加者同士のつながりも価値あるものとして、平和運動を担っていく者同士の絆を強めていっていただきたいです。　（はしもと まゆ）

ピーススクール 2023 スケジュール		
17 日（金）	【憲法】①「私たちの憲法～権力の暴走を許さず～」	伊藤真（弁護士）
	【政治】②「政治と若者～政治を私たちの手に～」	辻元清美（参議院議員）
	夕食交流会	
18 日（土）	【原水禁課題】③「第五福竜丸物語～核兵器廃絶の祈り～」	市田真理 （第五福竜丸展示館学芸員）
	【原水禁課題】④核と人類は共存できない～原水禁運動の歴史～反核の父・森瀧市郎初代議長に学ぶ	金子哲夫（原水禁共同議長）
	昼食／【フィールドワーク】第五福竜丸展示館見学	
	【人権問題】⑤「外国人の人権と入管法改正」における今後の課題～どうして奴隷労働と言われるのか～外国人技能実習制度～	坂本啓太 （全統一労働組合書記長）
	【人権問題】⑥民族教育と私－差別に立ち向かう民族教育の意義－	李俏娜（朝鮮大学校４年）
	【人権問題】⑦ LGBT・SOGI の基礎と労働組合の期待されること	神谷悠一 （LGBT 法連合会理事・事務局長）
	夕食交流会	
19 日（日）	ワークショップ（ディベート）	
	【まとめ】⑧歴史から見る日本の今と、平和フォーラム・労働者の役割	藤本泰成（平和フォーラム代表）
	【フィールドワーク（参加自由）】19 日行動	

〔本の紹介〕『バチカンへの手紙
ー福島県飯舘村の物語ー』
作・絵：アンドウミチコ

この絵本の帯には「知らないことが恥ずかしいと思いました」とあります。今年の３月には東日本大震災・福島第一原発事故から 13 年を迎えます。大地震と津波がもたらした大きな震災から、復興の道半ばにある東北地方の他の地域に比べて、福島第一原発事故の影響を強く受ける福島県内の地域は、未だ避難生活を強いられている現状があります。そして事故当時、「知らない」ことによって判断することが難しく、結果として大量の放射線量を浴びてしまったという事実について、今後の不安を拭い去れない多くの方々がいます。

絵本の舞台は原発から 30km ほど離れた飯舘村。ネコのブン太とカオルが、安全だと思われていた飯舘村で、通常の 1000 倍もの放射線量を計測したことから、周りの住民に「逃げた方が良い」と呼びかけるのですが、なかなか思い通りに進みません。そこでブン太とカオルは思いつく限りのことをするのですが…。その後の展開については、ご自身で絵本を開いてお読みください。

作者のアンドウミチコさんは、「原発にまつわることはとても難しく、絵本を作った私でさえわからないことだらけでした」と話します。「それでもやっぱり原発はこわいし嫌だよね、と胸を張って言えるような材料を集めてまとめてみたいと思ったのがきっかけだったように思います」とも話されるように、難しいことをいかにしてわかりやすく、多くの人に伝えるか、ということを考えられています。温かみのあるイラストと、読みやすい言葉を用いた文章は、「原発問題」という「難しさ」とは一風違った印象を与えてくれます。あとがきには、多くの資料を用いた説明も掲載されています。現在は、飯舘村のいまを描く第二弾の制作にとりくまれているとのことです。第二弾のあとがきは、汚染水・原発裁判・能登半島地震の志賀原発・マスメディアの影響についてまとめる予定とのことです。原発問題をわかりやすく伝えようとするチャレンジを、これからも応援していきたいと思います。

本の購入等についてはこちらをご覧ください。
https://www.ando-undo.com/321/　（谷 雅志）

WE INSIST!

能登半島地震と志賀原発

2024 年の年明け早々に能登半島地震が起きた。震度７を記録した大地震で石川県内では死者が 200 人を超え、震災関連死も後を絶たない。

石川県唯一の原発所在地志賀町でも震度７を記録し、隣接する輪島市では４メートルもの隆起を記録し西方向に 1.23 メートル動いた。北陸電力志賀原発は、冷却ポンプの停止、外部電源を受ける変圧器の故障と約２万リットルもの油漏れ、そして海面への流失、1・2 号機とも燃料プールから冷却水がこぼれ、防潮堤の一部が傾斜、1 号機付近の道路に段差発生など、様々な問題が発生した。周辺に設置されている放射線量を測定するモニタリングポストも 18 か所で測定不能に陥った。

志賀原発は、福島原発事故以降基準値振動をそれまでの 600 ガルから 1000 ガルに引き上げ、基準に沿った耐震対策を講じた。しかし、今回の地震は、志賀町内で 2828 ガルを記録した。日本では過去、中越地震 1722 ガル、東日本大震災 2934 ガル、熊本地震 1791 ガル、北海道胆振東部地震 1796 ガルなどが記録され、2008 年の岩手・宮城内陸地震で観測された 4022 ガルは世界最大としてギネスに認定されている。地震国日本における原発の危険性は、この基準値振動を考えるだけでも明らかではないか。

今回動いた活断層以外にも能登半島全域で活断層は見られる。志賀原発直下にも無数に断層が走っていて、2016 年には有識者会議が「活断層と解釈するのが合理的」との判断を下している。もしこの活断層が今回の地震に連動して動いたとしたら、最悪の結果を生んだかもしれない。能登半島では、地震によって道路や通信網の寸断が至る所で発生し孤立集落が多発している。半島特有の地理的条件が原発事故の際の避難を困難にする。海岸の隆起は船舶を寄せ付けず、能登空港の仮復旧までも 10 日かかった。一刻を争う原発事故からの避難が困難であることが実証される結果となった。半島における地理的リスクが明らかとなっている。政府は、原発の再稼働を促進するとしているが、住民の安全をどう考えているのか。いや、きっと経済効率のためには人の命はどうでもいいに違いない。　（藤本 泰成）

1966 年３月 30 日第３種郵便物認可　毎月１日発行　2024 年２月 907 号